

2022年度 杏林大学 市民聴講生講座 募集要項

■ 提供科目

2022/3/16 改訂

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間／授業形態
1	前期	「英語学特論Ⅳ」(応用言語学) 八木橋 宏勇 外国語学部 准教授	本講義は、認知言語学・第二言語習得について、「担当者が主導するディスカッション形式の基礎演習」と「学生によるプレゼンテーションと発展演習」の二本立てで展開される予定である。「用法基盤モデル」の観点から日常の言語現象をより分析的に考えられるようにトレーニングを行い、ことばに関する様々な現象への興味関心および洞察力を深めていく。最終的には、発展的で意義のある疑問を抱き、考え抜いてその疑問を解決に導く、という主体的な思考経験を積み重ねることで「問題発見力」「問題解決力」を「学問を通して」身につける。	4/11 ～ 7/25 毎週月曜日・5限 16:20～17:50 対面授業
2	前期	「英語学特論Ⅰ(統語論・文法論)」 稲垣 大輔 外国語学部 教授	ことばは「心の鏡」と言われます。私たち人間は、ことばを使わずに、考えたり、コミュニケーションしたり、社会生活を送ることはできません。ことばは私たち人間を人間たらしめている種に固有の生物学的特徴です。では、その「ことばの知識」とはどのようなものなのでしょうか？そして、その知識を幼児はどのようにして獲得するのでしょうか？ 本講義では、「生成文法理論」と呼ばれる、「ことばの知識」を、自然科学と同様に、データの収集、一般化、仮説の検証・反証、理論化という科学的方法を用いて解明するアプローチについて理解することを目的とします。生成文法理論が1950年代に誕生して以来、半世紀以上の月日が経過しましたが、この理論が一貫して掲げている目標・問題意識を確認した上で、英語という個別言語の具体的分析を通して、英語の文法を記述し、理論化する方法を学びます。	4/5 ～ 7/19 毎週火曜日・3限 13:00～14:30 対面授業
3	前期	「日中比較文化論Ⅰ(正月～端午節)」 詹 満江 外国語学部 客員教授	日本と中国は大変長い間交流してきました。漢字を共有するだけでなく、文化の基盤をも共有してきたのです。例えば、日本における「お月見」は旧暦の八月十五日夜の満月を觀賞し、お団子を食べる習慣ですが、この習慣は中国にもあり、その由来を求めるとどうやら唐代に始まったらしいことがわかるのです。現代の日中の文化はあまり接点がないかのように見えますが、実はさまざまな点で同じルーツを持っているのです。お正月のように、東アジアの国々の多くは旧暦で祝い、ほとんど日本のみが新暦で祝い、という相違もありますが、現代でも東アジア、特に日中に共通の習慣はけっこう多いのです。この授業では、歳時を通して、日中の文化を比較していきます。	4/5 ～ 7/19 毎週火曜日・3限 13:00～14:30 対面授業
4	前期	「韓国の文学・文化」 鄭 英淑 外国語学部 教授	東アジアの中でも昔から交流があり、歴史的にも深い関係を持つ韓国(人)について知っていく。前半では、説話を紹介して昔からの韓国民族の思想・感情・情緒を吟味し、後半では現代韓国の文化を紹介し、韓国文化全般について理解する。これは発展的な日韓関係、東アジア共同体構築に向けての広い視野を持つにもつながると考える。	4/7 ～ 7/21 毎週木曜日・4限 14:40～16:10 対面授業
5	前期	「表象文化論Ⅰ(文学作品の映画化に見る景観)」 高木 眞佐子 外国語学部 教授	フィクションであると知りつつも、映画を観た時、そこに展開する見知らぬ風景に憧れの念を抱くことが、誰にでもあるのではないだろうか。それは恐らく、そうした風景が歴史や文化の重みを持ちつつ、なおかつ我々に理解可能なストーリーを帯びながら迫ってくるからである。それでは都市景観や文化遺産あるいは田園風景は、どういった瞬間に「魅力的」に映るのだろうか。本講義では欧米を舞台とする映画をいくつか取り上げ、そこに描かれる土地や空間が我々に生じさせる「感覚」について考察する。受講者諸君には、日本とは異質な文化が根ざしている美意識や価値観の違いに親しむとともに、正しい歴史・地理感覚や場所のイメージ(トポグラフィ)を掴んで欲しい。また、比較対照をするために、講義内では日本の映画についても言及することがある。基本的に講師が材料を提示していくが、学生諸君の希望に応じて他の作品も取り入れていきたい。	4/8 ～ 7/22 毎週金曜日・3限 13:00～14:30 対面授業
6	前期	「行動経済学」 糟谷 崇 総合政策学部 准教授	行動経済学は、従来の経済学では説明できなかった社会現象や経済行動について、人の直感や感情などの心の動きを重視し、人間行動について説明しようとする学問です。本講義は、行動経済学の基礎を学び、人間行動や意思決定の問題を理解できるように学んでいきます。 この授業の目的は以下のとおりである。 ① 意思決定がどのような行動仮定に基づいて行われているかを考察する。 ② データ分析の手法の違いによる意思決定への影響を考察する。 ③ こうした考察を通じて、経済学、心理学、社会学、統計学における人間行動の違いを理解する。	4/5 ～ 7/19 毎週火曜日・2限 10:40～12:10 対面授業

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間／授業形態
7	前期	「財政論」 知原 信良 総合政策学部 客員教授	財政学について、入門的レベルから始め全体像をひととおり理解するための講義である。財政問題として、政府の役割、予算、租税、社会保障等の仕組みや幅の広い課題を身近な問題を交えて学んでいく。経済活動における財政が果たす役割を、経済学の分析方法を使って考えていくことになるので、必要な経済学の知識も無理なく併せて学んでいく。こうした多角的な考察を通じて、現在の財政問題や将来の財政のあるべき姿について、自分の言葉で説明することができるようになることを目指す。	4/5 ～ 7/19 毎週火曜日・3限 13:00～14:30 対面授業
8	前期	「外交政策論A」 島村 直幸 総合政策学部 准教授	講義では、国際関係と外交について、主要なテーマを一つずつ取り上げ、歴史と現実に対する理解を深める。外交とは、近代以降の主権国家の間に展開されてきた対外政策の術であり、世界政府が存在しない「無政府状態(アナーキー)」の国際社会では、第一義的には「国家の生存」のために「秩序の安定」を目的としてきた。しかし、現代の外交では、経済や開発、人権、環境といった問題領域や争点の重要性が、たしかに相対的により高まってきた。なぜなら二度の世界大戦を経験し、核兵器が出現した現代の国際社会では、少なくとも大国間での戦争が勃発する蓋然性が著しく低下し、過去と比較すれば、安全保障や軍事力の重要性が相対的により低下してきたからである。 また同時に、国際的に相互依存が深化したことにより、戦争はますます起こりにくくなりつつある。国際社会で民主化や制度化がさらに進展していけば、戦争がやはり起こりにくくなる(はずである)という指摘もある。さらに、国際連合(国連)などの国際機関、多国籍企業、NGOや市民社会など、主権国家以外の行為主体(アクター)の重要性も、現代の外交ではたしかに無視できない。 しかし、国際システムが基本的に主権国家からまず構成され、システム原理が「無政府状態」であるという現実が根本から変化したわけではない。たとえば、国連はあくまでも主権国家の集まりであり、主権国家よりもより上位の権威、すなわち世界政府ではない。また、ヨーロッパ統合は、たしかに主権国家を乗り越える歴史的な実験を積み重ねてきたが、深刻な財政危機に直面し、今まさに歴史的な岐路に立たされている。	4/7 ～ 7/21 毎週木曜日・1限 9:00～10:30 対面授業
9	前期	「アメリカ政治論」 島村 直幸 総合政策学部 准教授	21世紀はじめの国際秩序は、中国やインド、ロシア、ブラジルなど新興国の台頭を受け、アメリカ中心の単極構造から「多極化」ないし「無極化」の趨勢が強まると予測されている。アメリカは、サブプライム金融危機とリーマン・ショックの後、21世紀型の100年に一度の国際金融危機に直面してきた。またアメリカは、中東地域のイランとアフガニスタンから撤退し、特に中国の脅威の台頭を背景にして、「アジア旋回」ないし「再均衡」を推し進めてきた。しかし、中東地域は、シリアの内戦など、「イスラム国家(IS)」の脅威の衰退後も混迷を深めている。アメリカ政治外交の現状をいかに分析し、将来をいかに展望できるのか――。 講義では、まずアメリカ外交の伝統を取り上げ、次いで第二次世界大戦後の冷戦期のアメリカ外交史を考察する。イギリスの歴史家E.H.カーが指摘したように、複雑な現在の問題をより深く理解するためには、過去の歴史を学び、過去と現在とを”対話”させる必要がある。アメリカ外交の歴史を学ぶ場合も、例外ではない。 また大統領とアメリカ議会、二大政党制など、アメリカ政治の仕組みについて議論したい。アメリカ政治は、アメリカ合衆国憲法によって、「権力の分立」と「抑制と均衡」の原則が厳格に適用されている。民主主義国家のアメリカ外交は、内政の動きと切り離して議論することができない。なぜなら、大統領とアメリカ議会の間では、内政だけでなく、外交でも「抑制と均衡」が機能することが期待されているからである。	4/7 ～ 7/21 毎週木曜日・3限 13:00～14:30 対面授業
10	前期	「中東・アフリカの政治・経済」 知原 信良 総合政策学部 客員教授	中東・アフリカの政治経済について学ぶ。 この地域は、地理的にも遠く宗教が絡むことから、敬遠しがちであるが、最近に関心が高まり需要視されている。とくに多様な資源やエネルギーの供給源として重要であり、歴史や文化についても深いつながりがあることはあまり知られていない。この地域に生きる人々の姿に焦点をあて、その背景にある歴史、宗教、文化も関連付けてみていくので、多くの新たな発見を見出してもらえらると思う。併せて、大局的に、中東・アフリカ地域の世界経済や国際政治上の課題についても考えていきたい。	4/7 ～ 7/21 毎週木曜日・2限 10:40～12:10 対面授業
11	前期	「食品製造学」 大久 朋子 保健学部 准教授	食品を大別すると植物性食品と動物性食品に分類できる。人間は、この食品を洗う、挽く、捏ねる、おろす、のす、切る、漬けるなどの物理的調理操作から、焼く、炒める、蒸す、煮る、茹でるなどの加熱調理操作、発酵、凝固などの化学的調理操作を用いることによって、様々な食品を製造してきた。そこには、理論があり、それによって技術が進歩してきたのである。この各種加工品の製造手法を中心に学ぶ。	4/6 ～ 7/20 毎週水曜日・3限 13:00～14:30 対面授業
12	前期	「福祉心理学」 石川 智 保健学部 講師	福祉領域は、保健・医療・教育に統一的な組織が働かなくてはならない。 本講義では福祉現場における心理社会的課題および心理的支援について学んでいく。各現場の支援対象である人々の持つニーズと社会的背景について基本的なところから考える。 また、福祉領域では対象者への支援が生活全般に及ぶ場合もあることは特徴的であり、その支援の基盤となる我が国の社会福祉制度の概要についても学習する。	4/7 ～ 7/21 毎週木曜日・2限 16:20～17:50 対面授業

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間／授業形態
13	後期	「英語学演習Ⅳ (英語教育と学習理論)」 八木橋 宏勇 外国語学部 准教授	本講義は、認知言語学・第二言語習得について、「担当者が主導するディスカッション形式の基礎演習」と「学生によるプレゼンテーションと発展演習」の二本立てで展開される予定である。「用法基盤モデル」の観点から日常の言語現象をより分析的に考えられるようにトレーニングを行い、ことばに関する様々な現象への興味関心および洞察力を深めていく。最終的には、発展的で意義のある疑問を抱き、考え抜いてその疑問を解決に導く、という主体的な思考経験を積み重ねることで「問題発見力」「問題解決力」を「学問を通して」身につける。	9/19(祝) ~ 2023/1/16 毎週月曜日・5限 16:20~17:50 対面授業
14	後期	「宿泊産業論」 西山 桂子 外国語学部 准教授	宿泊産業は現在、Airbnbの参入や感染症による移動の制限などにより転換点を迎えています。これまで産業の中心的存在であったホテルチェーンや日本の旅館がどのような課題に直面しているのかなど、宿泊経営の諸問題について考えます。宿泊施設のおペレーションだけではなく、不動産投資を行うファンドや不動産投資信託についても取り上げます。運営者と投資家の両方の立場から、宿泊事業の計画や市場分析を行ったり、経営における重要な数字などを把握します。テクノロジーの導入事例や業態の多様化など最新の動向も紹介しつつ、今後の経営には何が求められるかについて考えます。	9/20 ~ 2023/1/10 毎週火曜日・1限 9:00~10:30 対面授業
15	後期	「英語学演習Ⅰ(文のしくみ)」 稲垣 大輔 外国語学部 教授	今日、好むと好まざるとにかかわらず、情報の多くは英語で世界中を駆け巡っています。多くの学問分野の先端的情報も英語で発信されています。もし、その情報を得たければ、英語を読むことを通して得なければなりません。また、もし、自分の主張を世界の人々に向けて発信したければ、英語でそれを書かざるをえません。この授業では、英語で書かれた英語学関連、主に統語論を扱った論文を演習形式で輪読します。統語論の基本的な考え方、理論的枠組、専門用語の概念などを理解した上で、論文の主張を正しく理解する能力を養います。同時に、手本となる良い論文を読むことを通して、論文の全体的構成、論文の骨組みになる基本的な表現、議論を的確に展開する表現などを学び、実際に自分で使えるようになるアカデミックライティングの能力を身につけます。	9/20 ~ 2023/1/10 毎週火曜日・3限 13:00~14:30 対面授業
16	後期	「日中比較文化論Ⅱ (七夕節~除夜)」 詹 満江 外国語学部 客員教授	日本と中国は大変長い間交流してきました。漢字を共有するだけでなく、文化の基盤をも共有してきたのです。例えば、日本における「お月見」は旧暦の八月十五日夜の満月を觀賞し、お団子を食べる習慣ですが、この習慣は中国にもあり、その由来を求めるとどうやら唐代に始まったらしいことがわかるのです。現代の日中の文化はあまり接点がないかのように見えますが、実はさまざまな点で同じルーツを持っているのです。お正月のように、東アジアの国々の多くは旧暦で祝い、ほとんど日本のみが新暦で祝う、という相違もありますが、現代でも東アジア、特に日中に共通の習慣はけっこう多いのです。この授業では、歳時を通して、日中の文化を比較していきます。	9/20 ~ 2023/1/10 毎週火曜日・3限 13:00~14:30 対面授業
17	後期	「韓国語圏研究」 鄭 英淑 外国語学部 教授	この講義では北朝鮮について研究していく。北朝鮮研究と、春学期の韓国の文学・文化研究によって韓国語圏研究がまとまることになる。北東アジアの安定を乱す最大の原因である北朝鮮を研究することは朝鮮半島の安定だけでなく、日本の安全保障さらには世界の平和のために欠かせないことである。そこで、ここでは未知の隣国でもある北朝鮮について一つのテーマに特化させないで、できるだけ多くの分野を網羅的に扱っていく。	9/22 ~ 2023/1/12 毎週木曜日・4限 14:40~16:10 対面授業
18	後期	「出店戦略」 加藤 拓 総合政策学部 講師	街中でコンビニ、レストラン、金融機関など同じ屋号で多数の店舗を営業している企業をよく目にすると思います。そうした企業(チェーン企業)の新規出店や店舗網管理に関する意思決定事項とその周辺知識について網羅的にお話します。毎年のように多くの企業が多店舗化を試みますが、日本国内で成功するケースは想像以上に少ないものです。もつといえほとんどが失敗します。その失敗の原因を商品力やサービス、価格などの店内環境に含まれる要因に求める論調が多いのですが、そこには”出店”の視点が十分に含まれていません。出店戦略・計画・判断のミスが経営に重大な影響を及ぼすこと、出店は簡単なことではないことを知ってほしいという思いでこの講義を作りました。	9/19(祝) ~ 2023/1/16 毎週月曜日・2限 10:40~12:10 対面授業
19	後期	「国際会計論」 内藤 高雄 総合政策学部 教授	近年、多国籍企業の増大、経済・資本市場のボーダレス化、金融の自由化・国際化にともない、会計制度は急速にグローバル化されてきた。本講義では国際会計の諸問題を、国際取引会計、比較制度会計、会計制度の国際的統一の3つのカテゴリーに分けながら、それぞれについて詳説していくことにする。その際、現在、IFRSやIASという名称で話題になっている、会計制度の国際的統一の問題に焦点を入れながら、最新の状況を織り込みながら、講義していく。	9/20 ~ 2023/1/10 毎週火曜日・2限 10:40~12:10 対面授業

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間／授業形態
20	後期	「国際政治経済学」 三浦 秀之 総合政策学部 准教授	国際社会はアナーキーである。つまり、国内社会と異なり、中央政府が存在しないのである。しかしながら、そのことは国際社会に秩序が存在しないことを意味するのではない。国際社会は様々な制度を構築することにより、国境を越える経済的に問題に対処してきたのである。本講義では、国際政治経済学の基礎を体系的に学ぶことを目指しています。具体的には、近代以降の国家間の経済関係(特に貿易や投資の自由化)の政治的側面に焦点を当て、概観して行きます。	9/20 ～ 2023/1/10 毎週火曜日・1限 9:00～10:30 対面授業
21	後期	「経営学総論」 糟谷 崇 総合政策学部 准教授	この講義では、最新の経営理論やフレームワークなど、現代企業において欠かすことのできない考え方について整理し、こうした経営学の概念を実践に活用できるよう、最新の事例を基に学習する。	9/20 ～ 2023/1/10 毎週火曜日・2限 10:40～12:10 対面授業
22	後期	「時事問題研究B」 島村 直幸 総合政策学部 准教授	国際政治経済の時事問題について、レジュメや新聞記事などを題材にして理解を深めていく。 2016年は、アメリカ大統領選挙や日本の参議院選挙など、国際的に選挙の年であった。2017年は、ドナルド・トランプ がアメリカの新しい大統領となった。2018年にはトランプ外交が本格的に始動した。2018年から2020年にかけては、米中貿易戦争が勃発している。米中間で「新しい冷戦」まで指摘される。 また、BRICSなど新興国の台頭を受け、地政学が復活した、という議論もある。「イスラーム国(IS)」の脅威の衰退後も、シリアの内戦やイラン問題など、中東情勢は混迷を深めている。アメリカ外交は、オバマ政権の下で、迷走を深めた。トランプ外交は、混迷を極めた。バイデン政権の政策対応が注目される。 21世紀の国際秩序は、いかなる方向へ向かうのであろうか__。	9/16 ～ 2023/1/13 毎週金曜日・3限 13:00～14:30 対面授業

※ 曜日・時限・授業内容・授業形態が変更の可能性もあります。

※ 祝日開講する講座もあります。 予めご了承下さい。

【申込受付期間】 ◇前期期間 2022年3月15日(火)～3月25日(金)

◇後期期間 2022年7月15日(金)～8月12日(金)

【対象】 原則、18歳以上の方で、大学レベルの講義に関して学習意欲のある方。

【募集人員】 いずれも若干名(申込多数の場合は、締切前に申込をお断りすることもあります)

【受講料】 1科目 11,000円

※三鷹市在住の18歳以上の市民(学生を除く)の場合、年間1科目を限度に1,500円を助成します。
助成を希望される方は証明書類(運転免許証・健康保険証等)を提示ください。

※教材費がある場合は、実費負担となります。

【申込・支払方法】 三鷹ネットワーク大学の窓口で現金にて支払(受講申込書あり)

■ 注意事項等

◇ 講義は正規学生と共に受けていただきます。

◇ 学内のルールを守られない方や正規学生及び他の受講生、教職員への迷惑行為をされた方は
期間中でも受講をお断りします。(受講料の返還はありません)

◇ 欠席された場合、講義のレジュメ等の取り置きはいたしませんのでご了承下さい。

◇ 一旦申込まれた講座の変更は原則としてできません。(受講料の返還はありません)

◇ 公共交通機関をご利用下さい。駐車場・駐輪場はありません。

◇ 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、科目によりZoom等を使ったオンライン授業となる可能性があります。

※オンデマンド対応科目も含まれます。[社会情勢に応じて変更がある場合は都度、ご連絡をさせていただきます]

PC・タブレット・スマートフォンいずれかの機器をご用意いただく場合がありますことをご承知おき下さい。

※ 詳細はお問合せ下さい。

市民聴講生講座に関する問い合わせ先

杏林大学 (井の頭キャンパス) 地域交流課

〒181-8612

東京都三鷹市下連雀5-4-1

TEL : 0422-47-8000 (代表)

窓口取扱時間

平日 : 9 : 00 ~ 17 : 15

申込・支払先

特定非営利活動法人

三鷹ネットワーク大学推進機構

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-3

三鷹駅前協同ビル3階

TEL : 0422-40-0313

開館時間

火曜日～土曜日 : 9 : 30 ~ 21 : 30

日曜日 : 9 : 30 ~ 17 : 00

「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置
(東京都)」期間中は、開館時間を午後9時までに
短縮します(日曜日は従来どおり午後5時まで)

